



本年も、VAICコミュニティケア研究所の活動に
 変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

☆。.:*。° ☆。.:*。° ☆。.:*。° ☆。.:*。° ☆。.:*。° ☆。.:*。° ☆。.:*。° ☆。.:*。° ☆。.:*。° ☆。.:*。° ☆

地域をつなげる取り組み in 園生

地域住民と挨拶はしても、それ以上の関係は作らない、作れない。
 地域での関係性が希薄な中で、地域コミュニティの形骸化が浮き彫りになっています。
 地域コミュニティが機能していれば、未然に事故を防ぐことができる場合が少なくありません。
 そこでVAIC-CCIでは、園生周辺をモデル地域として、地域コミュニティの再生に向けてさまざま取り組みを行っています。

<地域をつなげる取り組み>

- ◆いきいき元気クラブの実施
- ◆虹と風のマルシェのフリーマーケット参加
- ◆グリーンプラザ園生敬老会の運営補助
- ◆グリーンプラザ園生の防災訓練参加
- ◆グリーンプラザ園生の公園での高齢者の見守り



▲介護予防教室
 「いきいき元気クラブ～座ってできる予防体操～」

▲グリーンプラザ園生の敬老会



▲虹と風のマルシェのフリーマーケット▲

VAIC-CCI は児童養護施設支援プロジェクトに参加しています

～すべての子どもの未来のために、今私たちがすべきことがあります～

児童養護施設
準備状況報告

生活クラブ風の村が千葉県の公募を受けて、君津に児童養護施設を建設することになり、虹の街でも何か支援ができないかという思いから、2012年度4月より児童養護施設支援プロジェクトが立ち上がりました。ボランティアのコーディネートという視点から、VAIC-CCIからもプロジェクトに参加しています。

児童養護施設とは

児童養護施設は、虐待や貧困、親の病気など何らかの理由で親と暮らせない、おおむね2～18歳の子どもたちが暮らす場所です。その数は3万人を超え、およそ570の施設があります。

千葉県にはすでに17の児童養護施設がありますが、施設も、施設に措置される前の児童相談所の一時保護所も常にいっぱい状態です。

児童養護施設は、かつては孤児院と呼ばれ戦災孤児を保護するためにありましたが、今では入所する子どもたちの8割は、ひとり親または両親がいるそうです。暮らしにくい世の中のしわ寄せが弱い立場の子供たちにいく…まさに今の時代を象徴しているようです。

施設に入所してくる子どもたちは、親との別離や虐待など辛い思いを経験した子です。そんな子どもたちが、大切にされる経験を通じて自分を取り戻す場が児童養護施設です。

●児童養護施設支援プロジェクトのこれまで

昨年9月には、おおぜいの人に君津における児童養護施設の建設と支える仕組みづくりについて伝えるため、前千葉県知事の堂本暁子氏の講演会を開催しました。



▲堂本暁子氏



▲映画「隣る人」ポスター

11,12月には千葉市と君津市・松戸市で、埼玉県にある児童養護施設を8年間撮り続けたドキュメンタリー『隣る人(となるひと)』の自主上映会を行いました。講演会、上映会ともに、児童養護施設君津(仮称)の施設長候補の高橋克己さんに、「施設の子どもをめぐる現状と、支える会(仮称)に期待すること」についてお話いただきました。高橋さんのお話は、私たちの想像を超えるもので、参加者の中には涙を浮かべながら聞く人の姿も見受けられました。また、多くの人に知ってもらい、賛同し、一緒に支えてもらうため、全3冊の冊子を作り(第3冊は2月完成予定)、さまざまな対面の場で話をしながら渡しています。



尊ばれ

癒され

育まれる



●私たちにできること

児童養護施設は、国と地方自治体からの公的な予算措置と寄付によって運営されますが、子どもたち一人ひとりの暮らしを大切に、できるだけ家庭に近い形での暮らしを保障するには十分ではありません。その足りない部分を、賛同してくれた人が手を出し、金を出し、支える…そんな仕組みを作っていきたいと考えています。

子どもたちがおおぜいの人に支えられ、いつか施設を巣立っていけるよう、支援をしながら見守っていきたいと思います。そしてその先には、社会で子どもを育てるための様々な活動の展開ができればと思います。

みなさんの支援が、子どもたちには必要です。



▲児童養護施設完成予定図



【文：生活クラブ虹の街 児童養護施設支援プロジェクト座長 久保貴子】

VAIC-CCI は全国権利擁護ネットワークに加入しました

全国権利擁護ネットワーク



地域の権利擁護支援活動を推進し、誰もが地域で安心して暮らすために、日本に権利擁護支援システムを構築を実現するために設立される

VAIC-CCIは、2012年9月全国権利擁護支援ネットワークに加入しました。誰もが地域で自分らしく暮らすために、全国各地で権利擁護支援の実践を積み重ねてきた団体・個人が、権利擁護支援のネットワークを形成して、相互に学び合い、交流し協働することによって、それぞれの活動を充実・発展させ、全ての人に通じる支援として権利擁護の手法を普遍化していくことをめざします。千葉県権利擁護支援ネットワーク設立準備会が立ち上がり、2013年2月設立総会が行われる予定です。



わたしのボランティア No. 22

こどもカフェ 3rd フレッシュ虹



そもそもわたしが、**こどもカフェ**でのボランティアの参加を申し出たのは、「子どもへの苦手意識をなくしたい」と思ったからでした。大学で住環境を研究している身として、子どもの視点を大切にしたいという思いはずっと頭の隅にありましたが、中学、高校、大学と進学していく中で、子どもとふれあう機会はどんどんなくなっていき、いつしか「子どもは苦手」と思う自分がいました。

ボランティアとして**こどもカフェ**で子ども達と接する中で、すっかり忘れていた自分の小学校時代の気持ち、エネルギーを思い出すことができました。わたしが小学生だった頃と比べて、公園の遊具は減り、インターネットや携帯電話が普及するなど、子ども達を取り巻く環境は少なからず変わっていると思います。しかし、**こどもカフェ**の活動を通じて垣間見られた子ども達の本質は、わたしが小学生の頃と何ら変わらないと感じられたのです。そのことに気づいてから、わたしの中にあつた「子どもに対する苦手意識」がなくなっていったように思います。

これまで **こどもカフェ** のボランティアスタッフを続けてきて、わたしは変わることができたと思います。「子どもは苦手」とは思わなくなりましたし、むしろ子ども達との交流を楽しめるようになりました。



▲学生ボランティアと子ども達

園生発

(千葉大学 工学部 都市環境システム学科 4年 青木茂樹)

あなたの食卓にヒントに!!

今月のレシピ

かぼちゃのお焼きチーズ風味

(材料 4人分)

- ・かぼちゃ — 300g
- ・小麦粉 — 大さじ2~3
- ④ 卵 — 1個
- 砂糖 — 大さじ2
- 粉チーズ — 大さじ2
- ・バター — 20g

- ① かぼちゃにラップをかき電子レンジで2分加熱して取り出す。
- ② ところどころ皮をむき、種を除いて乱切りにする。ボウルに入れ、ラップをして電子レンジで約1分柔らかくなるまで

加熱し、フォークで粗くつぶす。

- ③ ②に④を加え、よく混ぜ合わせる。
- ④ フライパンに油大さじ2とバターを溶かし入れ、③の生地をスプーンですくってフライパンに並べ、表面を押さえながら両面焼く。



歌を通して「ふるさと」を想う

私達のコーラスグループは、ボランティアとして毎年老人ホームやディサービスを訪問し、お年寄りと一緒に「おぼろ月夜」や「浜辺の歌」など、昔から歌い継がれている懐かしい曲を楽しく歌う。最後に「ふるさと」を合唱すると涙をポロポロ流される方がいて、私ももらい泣きする。きっとふるさとの懐かしい風景やご家族のことなどを思い出しているのだろう。私もまた自分のふるさとのことを改めて思い出す。



昨年の東日本大震災で各地に避難されている方々も、一日も早くふるさとに戻りたいと話される。震災復興を願って作られた「花は咲く」もふるさとへのみんなの思いが詰まった、とても心に響く歌である。人はいくつになっても、またどんな境遇になってもそれぞれの「ふるさと」と深い絆でつながっている事をしみじみと思い知らされる。「また来てね」というお言葉を励みにこれからも歌い続けていきたいと思う。

(M. I)

スタッフの
ちょっとカフェタイム

